

J S A 北海道支部ニュース

No. 285

2006. 3.30

日 本 科 学 者 会 議

北 海 道 支 部

事務局 〒 060-0807

札幌市北区北7条西1丁目
バームハイツ札幌201

振 替 02740-1-6811

TEL. FAX (011)707-2299

Eメール jsa-hokkaido@mc6.sings.jp

北海道支部 ホームページ : <http://www.jsa.gr.jp/hokkaido/>

JSA本部 ホームページ : <http://www.jsa.gr.jp>

第3回支部幹事会	1
創立40周年記念科学シンポジウム	2
2006年度JSA支部大会	3
科学談話室	4

第 3 回 幹 事 会 開 か れ る

3月5日(日)北大工学部で標記会議が開催された。出席は、9班・分会(北大工2名・農・水、北海学園大、札幌学院大、道研究団地、北見工大、旭川大、稚内北星大)、個人会員幹事5名及び代表幹事2名、オブザーバ1名の計18名でした。山田代表幹事の開会挨拶後、進行役に沼辺(道研究団地)・木村(北大水)両氏を選び以下の議事に入った。

支部・班等活動報告 事務局長の支部活動報告後、以下の班等活動報告がされた。

- ◇北大工：定年退職者の送別会を予定している。北大水：3名退職(内1名は函館高専)で、会員継続は難しい。JSAに協力はしてくれそう。二酸化窒素大気汚染調査を継続している。
- ◇稚内北星大：道北三大学交流会を開いた。「9条の会」については、3月の総会で検討する。
- ◇北見工大：学長候補者の意見を聞く会、退職者の送別会を開いた。北海学園大：4月に憲法9条フォーラムを開く。
- ◇札幌学院大：新会員の研究報告を聞く会をもった。
- ◇第三水曜の会：会員の減少が話題となった。原因を調べる必要があるとの声が出ている。
- ◇地球温暖化問題研究会：例会を数回開き、活発に研究している。

議題1. 支部創立40周年事業 記念シンポ実行委員会の山田委員長より記念北海道科学シンポジウムの提案がなされ、討議した。提案は大筋として承認された。(別項記事参照)

議題2. 憲法問題 担当常任幹事の水野さんから取り組みについて報告された。いくつかの班で検討するとの発言があった。

議題3. 「研究者の『権利・地位宣言』、『倫理綱領』 井上さん(北大教育)から詳しい説明があった。「…一般市民以上にその権利と地位を保障…」という点について疑問が出された。意見を全国事務局に伝えていただくこととした。時間の制約もあり、十分な議論ができなかった。

議題4. 道の行財政改革 沼辺常任幹事より説明があった。地域経済を専門とする会員に本問題を検討して頂きたいとの要望があった。財源の問題やどの機関で検討されたのかなどの質問が出た。

その他の議題 (1)支部大会：日程、場所及び議題について了承された。(別項記事参照)

(2)第16回総合学術研究集会：事務局長が1st Circularに基づき説明し、「お国自慢セッション」に取り組むことが提案された。(事務局長・江見)

日本科学者会議北海道支部創立40周年記念

北海道科学シンポジウム 開催要綱

記念シンポジウム実行委員会

日本科学者会議北海道支部創立40周年記念北海道科学シンポジウムについては、3月5日開催の支部幹事会において、下記の通り開催要綱が決まりましたのでお知らせ致します。

A シンポジウムの大綱について

I 開催の主旨

北海道支部の40年にわたる活動の実績を踏まえて、これまでの“専門に根ざし、専門を越えた活動”の伝統を引き継ぎ、今後の支部活動の展望を切り開くことを目指してその基本的な課題を明らかにする。

II 主題の設定と意義

- 1 主題の設定 『エネルギー・環境問題の検証と今後の展望』
- 2 主題の意義 21世紀の“科学と社会”をめぐる基本的な課題のなかで、とりわけ社会の関心が高く、さらにJ S A北海道支部としてこれまで取り組んできた実績があるテーマとしてこの主題を設定し、広く市民に公開して議論を喚起する。

III シンポジウムの構成

- 1 主催者 主催：日本科学者会議北海道支部
- 2 シンポジウムの構成

問題提起

- | | | |
|---------------------------------------|-----------------------|-------|
| 1・エネルギー・環境問題と地域開発
ー持続可能な開発を視野に入れてー | 北海学園大学経済学部 | 小田 清 |
| 2・エネルギー問題と地球温暖化 | J S A支部常任幹事 | 石崎健二 |
| 3・自然エネルギーの現状と課題 | 北海道大学大学院工学研究科 | 大友詔雄 |
| 4・木質系バイオマスの現状と課題 | 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター | 神沼公三郎 |

総合討論

IV 開催日時・会場

日時：2006年5月13日（土）午前10時～午後5時

会場：北海道大学学術交流会館小講堂（札幌市北区北8西5正門入ってすぐ左側）

B. 総合討論への参加の呼びかけ

(1) コメンテーターについて

主題及び問題提起にかかわって、数名のコメンテーター（1人5～10分）を依頼したいと思っておりますので、希望する方はコメントの主なテーマ、発言予定者などについて、4月30日までに支部事務局宛にファックス、手紙、電子メールなどでご連絡願います。

(2) 上記のほかに、当日参加者からの積極的な発言（書面参加を含む）を期待しておりますので、随時準備の上ご参加下さい。

会費の自動払い込み制度 利用申込受け付け中です

今年度から会費の郵便局自動払い込み制度を開始しました。2006年度分の会費が2006年5月末に自動払い込みとなり、以後毎年同様に払い込まれる制度です。まだ申し込まれていない会員の方は是非ご利用ください。詳しくは支部事務局まで。

おくやみ

本会会員で道革新塾の梅木和朗氏は2006年1月17日なくなられました。
78歳でした。謹んでおくやみ申し上げます。

2006年度JSA支部大会 及び 個人会員代議員募集のお知らせ！

2006年度日本科学者会議北海道支部大会を下記の通り開催します。別途お知らせするように、各班では代議員を選出し支部事務局までお知らせ下さい。

代議員が出席できない場合は委任状を必ず提出してください。

代議員以外の会員の方々も積極的にご参加していただき、ご意見等をお聞かせ下さい。

記

☆ 日時： 2006年5月14日（日）9：30～14：30

☆ 場所： 北大工学部社会工学系第1会議室 A101（工学部正面玄関入り1階左手奥）

☆ 報告及び議題：

1. 2005年度支部・班・委員会等活動報告
2. 2005年度会計及び監査報告
3. 2006年度支部活動方針案及び予算案
4. 支部創立40周年事業
5. 支部役員及び全国大会代議員選出
6. 全国大会議案意見交換
7. その他

2006年度支部大会の個人会員代議員候補者を募集

下記の通り個人会員代議員（班に所属していない会員から選ばれる代議員）を、募集します。自薦他薦を問いません。多数ご応募下さい。

- ◇代議員数 最大で12名
- ◇推 薦 自薦、他薦どちらも可
- ◇推薦期限 支部事務所宛、4月12日（水）までにご連絡ください
- ◇決定方法 4月13日の常任幹事会で審議決定し、結果を選出された方に連絡する。

道支部新年会開催

2006年2月9日（土）、エルプラザ地下1階、北前そば高田屋北8条店にて道支部新年会が開かれた。出席者は代表幹事の山田、神山氏。常任幹事の清野、増子、石崎、一條、江見、千葉の各氏。職員の清水さんと一般会員の井上氏と私であった。

常任幹事会議の終わった後だったので新年会は少し遅れて始まった。新年会の案内をもらった時、長い間この種の会合からご無沙汰していたので知らない人ばかりかなと思っていたら、清水さんと井上氏以外は全員顔見知りだったので逆に驚いた。あまり世代の交代が進んでいないと思う反面、皆さんまだ元気で頑張っておられるなど敬服した。

話題は時間軸と空間軸を超えて縦横に飛び回った。私がほぼ40年前に JSA に参加した時取り組んだ各種公害調査や、岩内で行われた第1回全国原発シンポジウムの裏話に始まり、現在進行中の大学法人化に伴う様々な問題、憲法9条の改悪に対する取り組み、エネルギー問題：石油、原子力、天然ガス、地球温暖化問題、ヨーロッパに於ける宗教問題：キリスト教と回教は対立しているかのように報道されているが、本当は？アメリカのブッシュ大統領とヨーロッパ諸国の対立矛盾、それに引き換え日本の小泉首相一派の国際感覚の欠如、強いものには尻尾を振りながら弱者にはほえて噛み付く犬。などなど。アルコールのおかげで少しメートルが上がり、話題は尽きず、日頃のストレスを吹き飛ばしながら、それぞれに明日からの活力を得て解散した。

（伊藤太郎）

科学談話室 b 私のヒドゥンカリキュラム ～札幌遠友塾の7年間～

井上 大樹

私が教育学の世界に足を踏み入れたのは大学院に入った7年前である。研究では高校生や若者、子育て中の若い母親などが主な対象であるが、週1回とある共通点を持った高齢者の方々と学ぶ機会を持ってきた。

義務教育を受けられなかった大人への識字教育の場である「札幌遠友塾自主夜間中学」は1990年に開講した自主（民間）の夜間中学である。映画「学校」に登場したような公立の夜間中学は東京都より北にはなく、自主を含めても北日本唯一である。全国夜間中学校研究会による試算では、日本で義務教育を終えられなかった成人は100～200万人いるとされ、日本国籍を持たない在日韓国・朝鮮、外国人労働者などは含まれていない。北海道では開拓地からの通学が困難で学校に通えなかった方も相当数いるという指摘もあり、戦後60年たった今でも「義務教育の保障」は形式上も完全ではないのである。

(カット省略)

遠友塾の1日は、全受講生とスタッフが集まって歌うことから始まる。授業は毎週水曜日に2時間、科目は国語、数学、英語、社会の4科目である。各学年の一斉授業の他、ひらなや数字から少人数で学習を進める「じっくりコース」がある。週1回、年70時間の制約もあり、3年間のカリキュラムは実質中学1年程度までの内容となっている。会場は札幌市民会館だが、来春には取り壊しとなり教室確保の問題が浮上している。この遠友塾の死活問題について、昨夏視察に訪れた市長の理解も得、教育委員会を交渉のテーブルにつかせるもその進展は予断を許さない状況である。

遠友塾のスタッフは約60名おり、全員ボランティアである。全国的にも例を見ないのはスタッフ構成における学校教員の少なさであり、小中高、経験者を含めても1/4しかいない。一方、受講生の中心世代は60～70代、スタッフの主力世代は40～50代であり、人生経験、社会経験がより豊富な親世代、学生スタッフになると祖父母の世代に対して教えることになる。さらに、受講生の多くが文字を満足に読み書きできない為に負った被差別の体験が、社会的抑圧からの解放と社会に主権者として堂々と生きて行くための学びを強く求めている。そのため、学校ではドリル中心の漢字学習でも、遠友塾の授業では受講生が抱える生活、社会的課題の解決を意識した構成にならざるを得ない。さらに、スタッフや他の受講生にもものが自由に言える雰囲気づくりが豊かな表現につながるため、クラスづくりも受講生の学びやすい環境づくりには欠かせない。

入学当初はさすがに緊張した面持ちの受講生も夏休みを過ぎたころ「夜間中学生」としてのパワーを存分に発揮する。12月のクリスマス忘年会では学年毎の出し物として、劇や踊り、ハンドベルなどで受講生の方々の熱演となって表れる。そして、自らを豊かに表現する術を手に入れた受講生たちの学びの成果が卒業記念文集や卒業式、卒業記念パーティのスピーチに凝縮される。中には、自らの戦争体験を初めて語る方もいる。さらに、2005年度は3年国語科、社会科が共同して日本国憲法の授業を展開し、受講生による「私の憲法前文」がつけられた。実際には試行錯誤の連続であれ従来の専門性や系統性を超えた視点から構成されたオリジナル教材や授業方法には、研究的視点からも参考になることも少なくない。

現在、私が担当している教育学関連の授業の冒頭には必ず夜間中学を扱っている。ビデオや生徒の作文から「学ぶ」ことの意味を問い直した学生たちを見て、民衆のための教育を考える一歩になればと願いつつ、自らに研究者の責務を改めて問う機会にもなっている。

(北大教育院生)

札幌遠友塾自主夜間中学 WebSite <http://enyujuku.com/>